



市民の声を市政に反映

杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行

662号 2017年5月23日

〒300-1235 牛久市刈谷町 1-41-8

TEL・Fax : 870-0335

携帯 : 090-5587-7693

Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

日教組が調査

臨時・非常勤教職員の労働実態

日本教職員組合が労働調査協議会に依頼しインターネットアンケート調査を開始したのが2月16日。およそ2カ月で全国各地から2,012人が回答そして、臨時・非常勤教職員の抱える不安や悩みが語られています。以下に紹介します。

長く勤めても昇級無し

・職場はとても働きやすいです。でも、結構な内容の仕事をしていても給料はとても低いのが現状です。長く勤めていても、昇給等ありません。空白期間があるために、保険証を返して、また入りなおすということも・・あまり、気分はよくありません。子どもが大きくなって、大学進学を考えるあたりから、給料の低さを身にしみて感じるようになってきました。

勤務日以外にも出勤

・非常勤で週当たりの時間数が限られているので、勤務日以外に出勤しなければならない

牛久市議会第2回定例会

杉森議員の一般質問

傍聴のご案内

杉森議員の一般質問の日程と内容は以下の予定です。ぜひ傍聴に来てください。

予約不要で、どなたでも傍聴できます。

【日時】6月7日(水)午前10時

【内容】1、公立小中学校教員の長時間労働
2、民俗資料館の開設
3、牛久沼の観光開発



ような公務分掌を担当させないでほしい。

出勤日と認めてくれない

・担当の授業がある日以外、試験問題の作成・印刷の日、試験当日の日、成績入力の日などについて、費用弁償(交通費支給)の関係で出勤日と認めてくれない管理職が多い。出勤簿の捺印部分を勝手にナイフで削られたことがある。

仕事は家でしろ!

・「早く退校するように!」と学校は出されるが、結局は「仕事は家でしろ!」で、持ち帰りの仕事が増えるだけ。根本的に仕事の量を減らさないことには、

曖昧な契約内容

・契約内容をきちんと伝えてほしい。「曖昧な契約内容でも、講師だから仕方ないだろう」という考え方を改めてほしい。

1年ごとに転勤

・1年ごとに引っ越しを伴う転勤があり、精神面、金銭面ともに辛い思いをしています。せめて、2年は同じ勤務地で働きたいです。

チョムスキー インタビュー

トランプによる北朝鮮威嚇の危険①

著名な言語学者・哲学者のノーム・チョムスキーは、外交のみが北朝鮮の核開発中断を引き出してきた歴史を振り返り、今も外交解決の道筋が実際にあることを指摘して、非核化を達成する唯一の手段として対話を強く求める。

ファン・ゴンサレス：核兵器の脅威が増しているのを懸念しておられるわけですが、朝鮮半島をめぐるも駆け引きがあり、トランプ大統領は数日前に、もし中国が北朝鮮に対処しないなら米国がやると述べました。北朝鮮と中国に対するトランプ政権のこれまでの政策とこれからの政策についてお話いただけますか。



トランプ政権のウソ

ノーム・チョムスキー：そうですね、これまでの経緯を見てみるとちょっと興味深いことがわかります。トランプ政権は、「もう手は尽くした。何もかもうまく行かない。だから武力を使わざるを得ない」と言っています。この、何もかもうまく行かなかった、というのは本当でしょうか。というのは、これまでの経緯があるわけです。経緯を見てみると興味深い。

2000年まで北朝鮮は抑制

1994年、クリントンは米朝枠組み合意と呼ばれるものを結びました。北朝鮮は核兵器開発を凍結する。米国は敵対的行為を控える。この合意は曲がりなりに機能し、双方とも約束を完全に履行したわけではありませんが、2000年まで北朝鮮は核兵器プログラムを推進

しませんでした。

G・ブッシュが北朝鮮攻撃

ジョージ・W・ブッシュが就任して、すぐに北朝鮮攻撃を始めた—ご存じのように、「悪の枢軸」と呼び、制裁を科したりした。北朝鮮は核兵器製造に転じた。

2005年、北朝鮮と米国は一つの合意に達した〔6カ国協議共同声明〕—かなり賢明な合意でした。北朝鮮は核兵器開発を放棄することに同意し、その見返りに不可侵誓約を求めた。他の5カ国は敵対的な威嚇をするのを止め、厳しい制裁を解除し、医療用などの低濃縮ウランを北朝鮮に提供する態勢を用意する—これが提案でした。

ジョージ・ブッシュはすぐにこの合意を破り捨てました。何日も経たないうちに米国は、マカオなどを通じた北朝鮮の金融取引の妨害を凶った。北朝鮮は合意を撤回して、核兵器開発を再開した。ですから、北朝鮮は史上最悪の政権だとか何とでも言ってもいいですけども、かなり筋のとおった報復政策をとってきたわけです。(TUP 速報 1005号より) つづく

チョムスキー紹介

エイヴラム・ノーム・、1928年12月7日生まれ。アメリカ合衆国の哲学者、言語哲学者、言語学者、認知科学者、論理学者。彼の業績は言語哲学、認知科学分野にとどまらず、戦争・政治・マスメディアなどに関する100冊以上の著作を発表している。1992年のA&HCIによると、1980年から1992年にかけてチョムスキーは、存命中の学者としては最も多く、全体でも8番目に多い頻度で引用された。彼は人文社会科学諸分野における「巨魁」と表現され、2005年には投票で「世界最高の論客」(world's top public intellectual) に選ばれた。